

化学環境学特論第二 10月12日(金)説明会内容のまとめ

1．小テスト実施 10月19日(金)13:20～ G114

2．工場見学会 11月16日(金)

- ・キャンパス発時間 8:00 になる可能性あり
- ・昼食は弁当が無償支給される
- ・食物アレルギーなどで弁当が食べられない可能性がある場合は昼食持参とし、成毛までメールで知らせる

・服装はスーツ推奨(強制ではない)

【注意】次ページの「化学環境学特論第二 注意事項」もよく読むこと

3．研究中間発表会 12月14日(金)

- ・専攻の全教員が分担して審査
- ・研究の進捗状況よりもプレゼンテーションそのものが重視される

4．レポート提出場所

- ・石谷 R1棟410号室の専用ポスト
- ・成毛 R1棟710号室の専用ポスト

【注意】レポートの書き方については次ページ「化学環境学特論第二 注意事項」をよく読むこと

以上

化学環境学特論第二 注意事項

A. レポート作成ガイドライン

1. すべてのレポートについて

基本的に学術論文の形式とする。即ち、1)序論(研究背景、目的)、2)実験方法(フィールド調査のみ)、3)本論(結果と考察)、4)まとめ、の形式を採用すること。

2. 基礎知識確認レポート

- 1) 必ず3件以上の資料を参照してレポートを作成する
- 2) 資料は、書籍、学術雑誌、新聞記事、信頼の置けるウェブサイトを利用してよい
- 3) すべての参考資料のリストを記載すること(ウェブサイトについてはサイト名とアドレスを記載)

3. 工場見学レポート

以下のポイントを例とし、工場及び研究所見学において学習したことを本論として記述すること。

- 1) 工場や研究所で実際に何が生産、あるいは研究されていたのか
- 2) 過去から現在に至る生産システムの改良点
- 3) 研究所スケールから工業生産へと規模を拡張するに当たっての工夫
- 4) 工場、研究所としての環境問題に対する取り組み

(重要) 上記以外に、

- 1) 見学にあたって必ず一人一回以上質問し、質疑内容を上記の本論に加えてレポートする
- 2) 印象に残った点、これまでの考えが変わった点、などをレポートに記載する

4. 特別講演、一般講演のレポート

講演内容の背景にあたる部分を、論文等を利用して調査し、簡単にまとめること(背景と目的に相当)。2件の聴講中、1回以上質疑時間を利用して質問し、その内容を本論に含めること。

B. 欠席の取り扱いについて

特論第二は全出席が単位認定の必要条件である。研究上の都合(学会や調査・研修旅行への参加)で出席が困難な場合、工場見学及びフィールド調査に関しては代替のレポートを課す。研究中間発表は個別に行う。止むを得ない病欠については上記に準ずる措置を検討する。